

66年生トドマツ人工林の施業経過と林分状況の変化 — 33年後の検証 —

網走南部森林管理署 業務グループ 一般職員 宿南 恭兵
 網走南部森林管理署 網走森林事務所 一般職員 藤井 颯

研究の背景・概況

昭和60年に主伐期を見据え、施業方法の検討を目的として実施された調査結果を基に、以降の施業経過と林分状況の変化を検証しました。

【調査地概要】

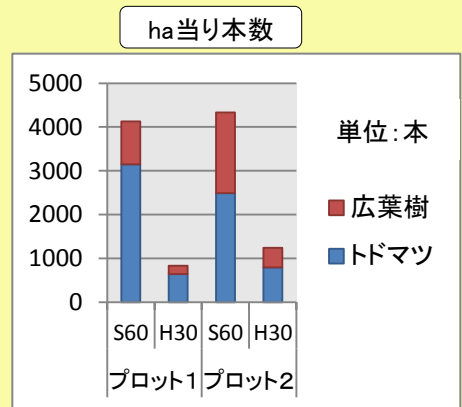
網走南部森林管理署 網走森林事務所 118い林小班
 面積：14.12ha 植栽年度：昭和27年 植栽樹種：トドマツ
 植栽本数：3千本/ha 水源かん養保安林 混交林施業群 複層林施業
 地位：4等級 土質：適潤性褐色森林土 下層植生：クマイザサ
 施業履歴：1回目列状間伐33% (H8) 2回目定性間伐28% (H19)

調査風景



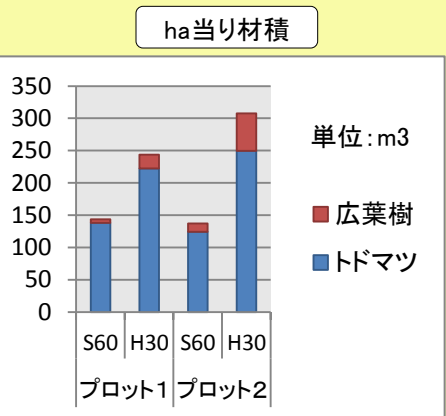
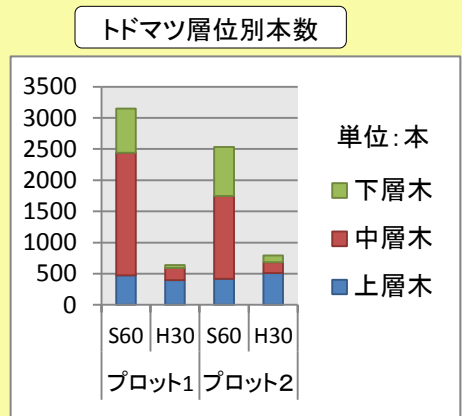
調査の内容・検証

- 昭和60年の調査と同様に2箇所のプロット(50m×40m)を設定し、毎木調査を実施しました。
- ha当りの本数は、プロット1・2とも昭和60年には4千本超の本数が、2回の間伐の結果1千本前後となっています。
- 平均直径は、前回の調査後33年を経過し、トドマツ・広葉樹とも2倍以上の成長が見られ、2回の間伐を行った効果が見られます。
- トドマツの層位別本数は、前回調査の上層、中層の占める割合が逆転しており、植栽木が健全に成長したことが見受けられます。
- ha当りの材積は前回調査よりプロット1で約1.7倍、プロット2では約2.2倍に増加しています。
 特にプロット2の広葉樹は約5倍の材積になっています。



平均直径

単位:cm	プロット1		プロット2	
	S60	H30	S60	H30
トドマツ	9	22	9	24
広葉樹	6	14	6	15



118い林小班全景



今後の展開

- 今回の調査の結果、前生広葉樹の生育も順調であり、今後適切な択伐施業等を行うことにより、より充実した針広混交林へ導くことが可能とされます。
- また、今回の検証結果を今後の施業方法の検討に活かしたいと考えています。